バイアス（かたよったデータから、かたよった答え）

AIの答えが、一部の人にとって不公平になるのはなぜだろう

例：声を文字にするAI（架空）

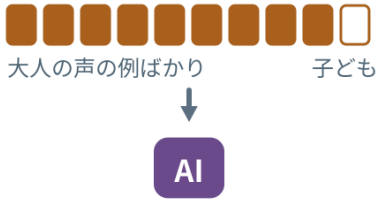
1 かたよったデータ

学習に使った声（割合は例）



いろいろな話し方（方言など）の声も少ない

2 学習



多い例に合わせて、聞き取りのきまりを学ぶ

3 かたよった答え

大人が「あしたは遠足」
→ **「あしたは遠足」** ✓

子どもが「あしたは遠足」
→ **「あしたは演奏」** ✗

4 不公平



子どもや話し方がちがう人だけ、まちがいが多い

→ **使いにくい・不利になる**

AIの答えはもっともらしく見えるので、かたよりに気づきにくい

かたよりが入りこむところ

- **集め方**　だれのデータを集めたか
- **過去の記録**　人の判断のかたよりも入る
- **正解の付け方**　正解を付ける人の見方

かたよりをへらす工夫

1 データを見直す

いろいろな人のデータを集める

2 人ごとに確かめる

グループごとに、まちがいの多さをくらべる

3 人が判断する

大事な判断は、AIだけに任せない

4 気づいたら伝える

使う人も、おかしいと思ったら知らせる

※ 架空の例。声の割合と聞き違いは説明のためのもの。かたよりは、声だけでなく画像や文章のAIでも起こりうる。